





◇
「私の身体好きに使っていいですよ..」の続きになります！
♡ シリーズを読んでいなくても大丈夫！
♡ ◇ ♡



■お兄さん

節操がない。

無限の精力をもつハゲ。



← いっぱいSEXするよ~!!
せーそうねえ!!

■種沢まもり(姉)

彼女、最近あっていなかった久しぶりに会う。たのしみ♪
お兄さんが好き。ななみが好き。



← 最近おっぱい大きくなった♡
何かっぴになたでしょう~!?

■種沢ななみ(妹)

妹、お姉ちゃんのことが好き。

お姉ちゃんに手を出させないように体を張って

お兄さんの相手をしてきた。最近お兄さんに思うことあり



← 体がムチムチになってきた♡
えいおナニーをするよっ

どッッ!!

前回までのあらすじ

主人公は、海でナンパされていたところを助けたことをきっかけに、"種沢まもり(茶髪の子)"と付き合い始めセックスライフを送っていた。



しかしある日、まもりが突然実家に帰ってしまい、寂しさを感じていた主人公のもとにまもりの妹"種沢ななみ(黒髪の子)"が現れる。



妹とも肉体関係を持ってしまった主人公は、その後も妹との関係が続けながら姉に会うため妹と一緒に実家へ向かう。



姉の帰宅を待つ中、ムラムラが抑えられなくなった主人公は妹の部屋で妹と再びセックスしてしまう。



そして——その最中に、姉が帰ってきてしまう…

ヤバイ!!



お兄さん
どっちなーの...?

ただいまー

あー疲れた
久しぶりに学校行ったら…

種沢さんだ

相変わらず
でけえ

ねえねえ
何してたの

彼氏できたって
聞いたけど

みんな帰してくれ
ないんだもんなく



もしかして…

バァ
バァ
バァ





ふにふに...

ふにふに

ふにふに

うず

うず

うず

うず

うず

うず

うず

：お兄さん
溜まってない？

え





でも
そろそろ



お母さん
帰ってくるんじゃないや...

隣にななみちゃん
もいるし...

お母さん外で
夜ご飯食べてくるって
言ってたし...



私とエッチ
したくないの...?

お兄さんはっ...



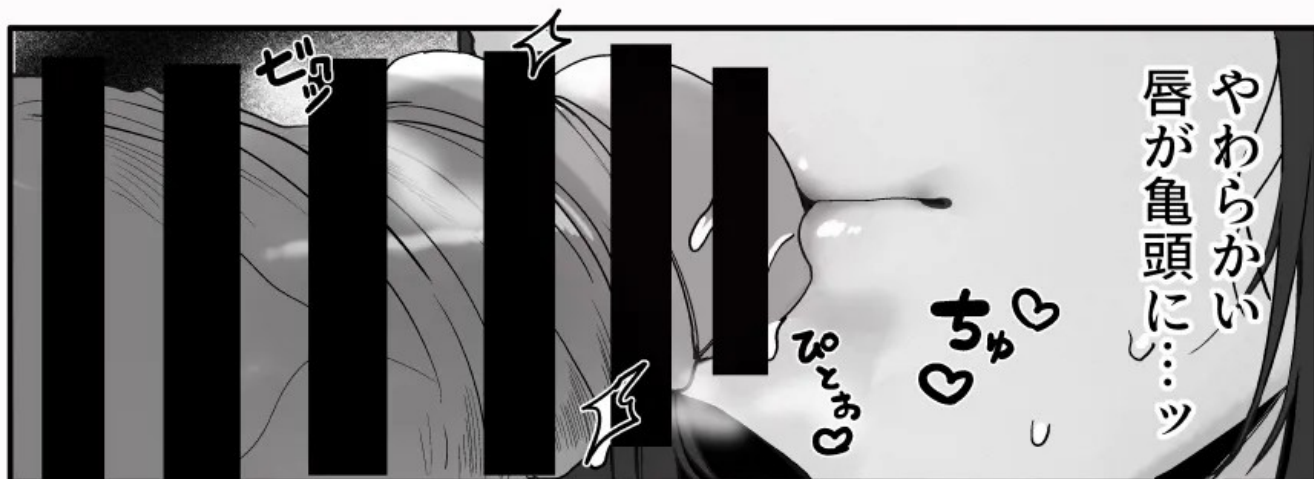
ななみもいつも
スマホゲーム
イヤホンつけてるから

こっちの声
聞こえなくなるから大丈夫

したい...です

素直でよし♡









♡♡
ほらお兄さん
本番しよ♡

さ、流石に
隣の妹さんにバレ…

あいかわらず
お兄さん

私が積極的じゃないと
ダメなんだから

ほらこへん

わっ

お兄さんの
久しぶりのおちんちん…♡

じゃあほらほら♡
入れていくよ♡

ゆーっくろ♡
ゆーっくろ♡



おちんぽ♡おちんぽ♡
おちんぽ♡おちんぽ♡
おちんぽ♡おちんぽ♡
おちんぽ♡おちんぽ♡
おちんぽ♡おちんぽ♡

んっ入って
きた…♡

さきつぽ
おちんちん♡

ぬっ♡
ぬっ♡
ぬっ♡

ぐっ♡
ぐっ♡
ぐっ♡

入った♡

ぬっ♡
ぬっ♡
ぬっ♡

どうですか
私の久しぶり子宮♡
気持ちいいですか？♡

おちんちん
見えなくなっちゃったね♡

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ
ガッ
ガッ





んっ お兄さん…
ほんと最低です…

姉さんもなんであんなに
ノリノリなんですか
簡単に感じて

姉さんはずるいつ…はあ

こんな体勢かな
んっよいしょ

デイルド使うの久しぶり...

お姉ちゃんも今...

んっこんな風に
お兄さんのおちんちんで
エッチしてるの...かなッ

ゆっくり...ゆっくり...

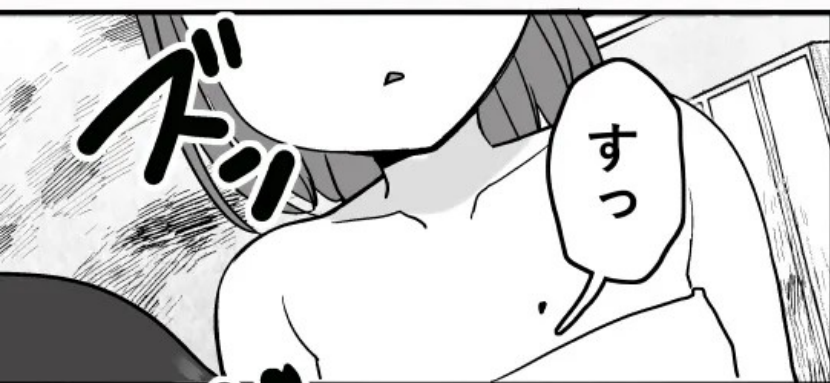
いっしょに
おちんちん
を
いっしょに
いっしょに
いっしょに

いっしょに
おちんちん
を
いっしょに
いっしょに
いっしょに













土下座



お兄さんなんで
ななみとのこと
隠してたの？



採決!

私はななみの
事が好き

ななみの好きな
お兄さんが好き

だから許します



それでいいの…

姉はこういう人
ではあります…

だからお兄さんは
ななみを気持ちよく
させてあげて

えっ



可哀想だよ♥

本物のおちんぽが
隣にあるのに
ひびきオナニーして

ほらかなみの
おまんこ♥

こーんなに
ぐちゃぐちゃ♥

お、お姉ちゃん…っ

いつあ♡

いつあ♡

めっちゃ
めっちゃ♡

めっちゃ♡
めっちゃ♡
めっちゃ♡
めっちゃ♡
めっちゃ♡
めっちゃ♡
めっちゃ♡
めっちゃ♡
めっちゃ♡
めっちゃ♡



「こんな下品な服…」

「じゃーん
どうかな…」

「お兄さん興奮してる、
コスプレ大好きだもんね」

「ピキニが食い込んで
まったく…んっ」

「ほらちゃんこまた
ハキハキになりましたか？」

「えっちなギャルが
ぬきぬきしてあげるからね」







ねえ、こっち見て…
気持ちよすぎて♡

おかしく
なっちゃってる顔♡

おちんちん
ぐちゅぐちゅって
音立てて…

いっく！

もう我慢できないの？

もっと奥っ…
んっ♡突き上げて…！

一緒に気持ちよくなるっ…

せーの♡

あ♡

頭真っ白になる
…し…やばい…

びゅるっ

ドッ

ドッ

ドッ

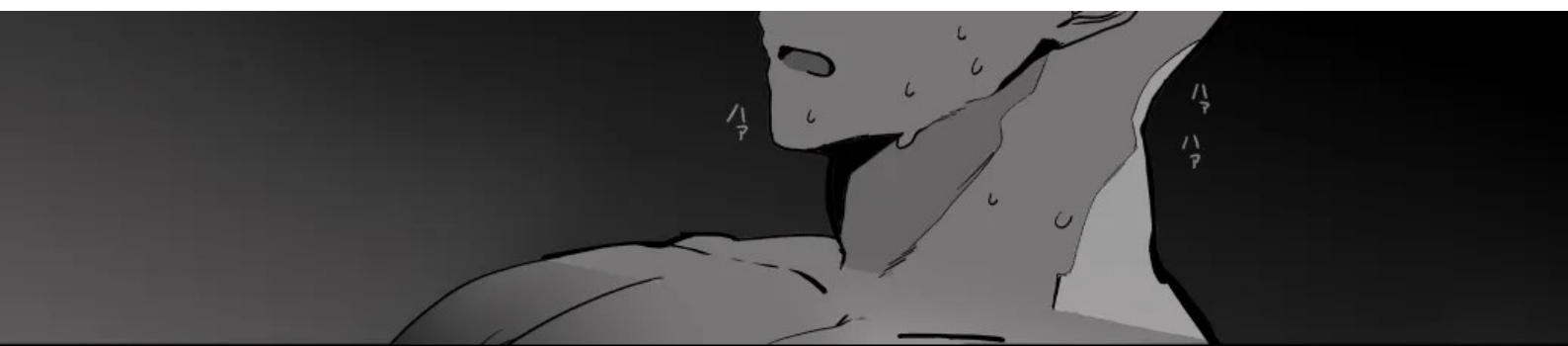
気持ちよかったね
お兄さん…♡

おちんぽ♡おちんぽ♡お
おちんぽ♡おちんぽ♡おち
ぽ♡おちんぽ♡おちんぽ♡
ぽ♡おちんぽ♡おちんぽ♡お
おちんぽ♡おちんぽ♡おち
おちんぽ♡おちんぽ♡おち









久しぶりの海だ〜
晴れて良かったね
お兄さん♪

ああ

まあまあ

はあ私こういう場所
苦手なんですよね…

そうそう
この海でお兄さんと
出会ったんだよ

…
そうなんですか

ザシ…









このデカ乳で
パイズリしてよ

もしようがないな
お兄さんは♡

フッ♡
フッ♡
ドキ

す♡

ちよお兄さん
力強い…ツ

はぁ♡
うん♡
ドキ

す♡

じやなみ
一緒にやろう♡

わかりました

む♡

め♡

ほが♡

ほが♡





ハイスリ重たくて
疲れるんですね…ツッ

ふんっ♡すっっ
ぬるぬる♡

ねえねえ、ななみも
楽しくなってきたんじゃない？♡

うおッ
ほら、おっぱいとお尻ちゃん
がスチユスチユしてる♡



ふっ…では、
もう少しだけ強めに…ッ

もっと擦って
あげなきゃ♡

これは…
あくまで作業ですので

それでも…ほら♡
お尻をさもうぐうぐうに叩いてあげよう♡

んっ…
疲れる…



ほろろっとな
だしてんさい...

んっこれなみの
乳首とお兄さんのちんこが
あたって...

うっ

あじかわりす
くら

わっんだ

あざっ...

あざ

あざ

お兄さん射精
上手上手♡♡

おっ





こんなの中に着てたから
もじもじしてたのか

お前が着た
かったんだろ

そ、そんなわけ

でもこんなに
まんこして...

それはあッ

ななみ着たかったん
だもんね

ちがッ

姉が着ひいてッ





ちゃんと、私の中で...
感じてくれますか?



次は私の番ですよ
お兄さん♡

ああ...



よいしょ

わっお兄さん力もち♡
ふふっ...気持ちいい?











責任とってくださるわ...♡







何を教えて
くれるんだ？

あんなにしてんだ

ため...

あああ...

いいこうぜ
きみわりイ

フツ







やっぱりお兄さんには
私1人を選んで欲しいな...

次回最終回

オモ...!!

あとかき
~~~~~

ここまで読んでくれてありがとうございます！  
いよいよ種沢姉妹物語も次回で最終回かな...！  
お兄さんはどちらを選ぶのか...はたまた！

次のページからはFANZA用に描き下ろした  
イラストになります！  
お楽しみいただけたらうれしいです～！



描いた人：ろうか

手伝ってくれた人：さかなくしゅん  
おやすみまん

ありがと～!!  
感謝しかねえ







「……これを着ると仰ったのは、お兄さんですよ？」  
「正直に言えば……とても着たくはありませんでした。ですが……命令でしたので」  
「……視線がいやらしすぎます。気持ち悪い」

もじ

もじ





「……はあ……。やっぱり変態ですね。お兄さんって」

「……でも。……その、少しくらいなら……。喜んでいただけるのも、悪くはない……。かもしれません」  
「だから……。今日は、特別に……。少しだけ、従ってあげます。……貴様、なさってくださいね?」

はあ……

もじ

もじ





「っ、な、なんですか  
この体勢……いきなり脚を持ち上げるなんて……」

「っ……はあ……この角度  
……奥まで、ずんずん当たって……」

ぎゃー

♡♡





「……これも、命令……ですから。  
わたしに拒否権など……最初からないのでしょう？」

「……っ、はあ……っ。ちよつと……休ませていただけませんか  
……これは……さすがに……っ」

おーんっ  
はんっ

はんっ

おーんっ  
はんっ  
はんっ  
はんっ







「やっぱりこれ、エッチすぎたかなあ……」

「だってーだってね？可愛いって思ったんだもん！  
ピンクでキラキラで、胸のとももキラキラでさ  
……さういうの、お兄さん好きだよね？」



むちゅ  
むちゅ

♡♡♡  
♡♡♡





「ううう、でも……めちゃくちゃ視線感じる……は、恥ずかしい……」

「はあ……でも、もう脱がないからね？」

「これ着るのめっちゃ勇氣出したんだから！」

「よーしっ、今日は……がんばっちゃうからね♡」





「んふふっ……♡今日はえっちなどキニを着た  
わたしが…いっぱい気持ちよくしてあげるね?」  
「ううん、大丈夫。ちゃんとリードしてあげるから。  
優しく、ゆっくり、おまんこでぎゅっして……ね?」  
「……はあ……はあ♡ねえ、見てくれている?」  
わたしのこと……ちゃんと感じてくれている?」

ぽんぽん♡  
ぽん♡

ぽん♡  
ぽん♡

ぎゅっ♡  
♡





「汗…すごい？ふふっ、もうドキドキが止まらなくて  
……全部おまんこで伝わっちゃってるね……♡」  
「ねえ……もっといっぱい甘えて？」  
ぜんぶ、わたしの中にいれていいよ……♡

はっ♡  
はっ♡  
はっ♡

はっ♡  
はっ♡  
はっ♡

















































「……また、こういう格好をお望みですか」

「……バニ……ですか。まったく、趣味がよくわかりません……」

「……本当に……恥ずかしいのですが。」

「……この服、胸のサイズ……まるで合っていない……」

アッ

アッ

たぶっ♡

たぶっ♡





「……でも。命令でしたから。着用は、いたしました」  
「……視線がいやらしいです。」  
あまり、じろじろ見ないでください。……本気で怒りますよ」

ムム

ムム

ムム  
ムム





「……はあ……まさかこんなことまでおせられるとは  
思っていませんでした」  
「……ご要望であれば、仕方ありませんね」

むぎゃん  
ぐんぐん





「……わたしの身体で、満足いただけるのなら  
……どうぞ、お好きに……」  
「ほんとと最低ですね……」

「ただし、これ以上……調子に乗られるようでしたら  
本気で怒ります。ほらなっさと射精してください……」









「あ、あのね……お兄さんっ……このバニー、どうかな？」

「ちよっと頑張って選んだんだけど」

「……やっぱり、こういうのって……恥ずかしいね……♡」

「……でも、今日は見てほしかったの。」

「ちゃんと……わたしのこと……♡」





「……えへへ、その……ん、ムム……  
ハートのシール……ずっと貼ってるよ  
なんかムズムズしてきちゃって……」  
「……ねえ……やっぱ、剥がしてもらえないかな……?♡」  
「お兄さんの手で……そっと……ね……♡」





「うん……大丈夫だよ……」

…お兄さん、わたしの中でちゃんと気持ちよくなれてる…?」

「ふふっ……そんな顔しちゃって」

かわいい♡いっぱい頑張ってるね……♡」

ぐわ  
ぐわ

ずぶ  
うう♡



「ねえ、もう無理じゃなくていいよ？  
そのまま、わたしの中に……ほら、  
ぴゅっぴゅっしていいんだよ？」

「ほら……  
おまんこぎゅーしてあげて……♡」  
「安心して、全部ゆだねてね……♡」

♡  
♡  
♡

♡  
♡  
♡

♡  
♡  
♡

♡  
♡  
♡

♡  
♡  
♡

♡  
♡  
♡

♡  
♡  
♡

♡  
♡  
♡































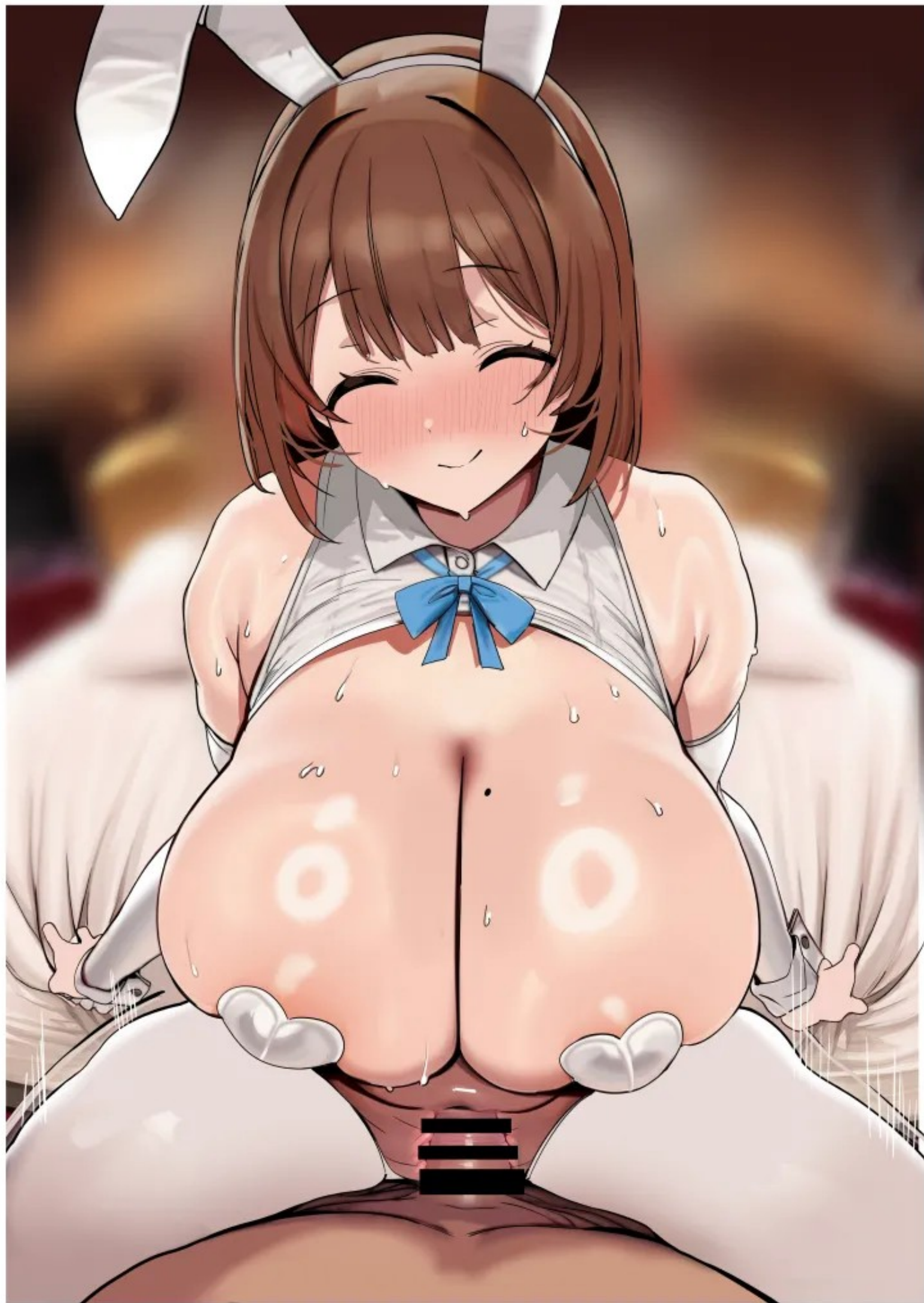


















「…これは、授業で使っている体操着です」  
「なぜ、それを…こんな場所で  
着る必要があるのか、理解しかねます」

「……恥ずかしいという感情は、ありません。

ただ——この服装のまま、こういう場にいること……抵抗はあります」

も  
わあ…♡





「……命令でなければ、決して着ることはありませんでした。」  
「……それでも、見たいとおっしゃるなら……勝手にすればいいでしょう。」  
視線の意味は、聞きません」





「ちょっと乱暴に突きすぎッですッ」

「ぬるい空気が肌にまとわりついて  
生地が……貼りついて……最悪ですッッ」

ズッ  
ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ  
ズッ





「……わたしは命令に従っているだけです。  
それ以上の意味を、勝手に想像しないでください。」  
「……こんなセックスツツ……もう少し、相手への敬意というものを  
……持っていただきたいものですね。」

んっほお

パッパッパッ







とびやるるる





「えへへっ……どうっ？この体操着……本物っぽいでしょう？」  
「実はね、今日のためにこっそり買ってきたんだ」  
「スプレって、ちょっと恥ずかしいかなって思ってたけど……」  
「でも、お兄さんが喜んでくれるなら」  
「がんばってみようって思ってた……♡」

たが♡

たが♡

たが♡

たが♡

ハッ

ハッ



八  
下

ハ

2

2



「うふふ……いっぱい気持ちよくなってるの、わかるよ？」  
「よしよし……いい子、だね♡」  
「おちんちん頑張ってるの、ちゃんと伝わってるよ……」

「そんなに夢中になって  
わたしのこと、好きすぎでしょお兄さん？」

おっ

おっ

おっ

パン♡

パン♡

パン♡

ぐん♡





「……んっ♡ 奥までいっぱい当たってる  
……でも、ぜんぶ受け止めてあげるから……」  
「いっぱい、甘えてっ？ わたしが、おまんこぎゅーっとして  
ぎゅーっで締めて……ぜんぶ、気持ちよくしてあげるから……♡」





「.....世にうたのうたーのう」

ユレユレ ヨレヨレ

ユレユレ

おっ













































「……これ、本当に着る意味があったのでしょうか」  
「……胸が……きつくて、正直かなり圧迫感があります…。  
破れたら、責任取ってくださいね」





「じろじろと、見ないでください。  
恥ずかしい、などとは言いませんけど……視線が鬱陶しいです」  
「……これで、満足したのでしたら。」  
早く終わらせてください。……長く着ていくはないので」



ぽっ  
♡

ぽっ  
♡



「ほんとに……この体勢でいいんですか」  
「べ、別に……嫌って言うてるわけじゃ、ありませんけど……」

ずわんずわん  
うんうん

んんん

んんん

んんん

「そんなに見つめないでください。  
こっち……こんな格好してるだけでも、精一杯なんですから」

じゅ

じゅ



「ほんとに……この体勢でいいんですか」  
「べ、別に……嫌って言うてるわけじゃ、ありませんけど……」

ずんずん  
ずんずん

んんん

んんん

んんん

「そんなに見つめないでください。  
こっち……こんな格好してるだけでも、精一杯なんですから」

んんん

んんん





「えへへ……お兄さん、これ見たら喜ぶかな？って思って……持ってきた♡」  
「昔、着てた競泳水着  
ちゃんと取ってあったんだよう？ ちょっと恥ずかしいけど……」

……

いっ♡あ♡





ん

ん

「……やっぱり、胸のところが、めちゃくちゃキツくて

うう、動いたら破けそうかも……っ」

「でも……ねえっ、うういっの、好きでしょっ？」

わたし、ちゃんと分かってるんだから……♡」

「今日はね、いっぱい甘えていいよ？」

お兄さんがとろとろになるまで……わたしが、甘やかしてあげるから……♡」





「んっ、ちょっと胸掴むの強いかも  
でも……大丈夫だよ♡」

「お兄さん、がんばってるもんね…  
わたしのこと、いっぱい触ってくれて…嬉しい♡」

ずぶぶぶ  
ううう  
ううう

ぎゃ  
ううう  
ううう♡





「こうしていると…ほんとに、大好きって気持ちが伝わってきて  
胸がきゅーっとなるの」

「だから…いいよ？」

「わたしでいっぱい気持ちよくなってる♡」

「せんぶ、受け止めてあげるから  
安心しておっぱいとおまんこに甘えて……ね？♡」

ずん

ずん









































